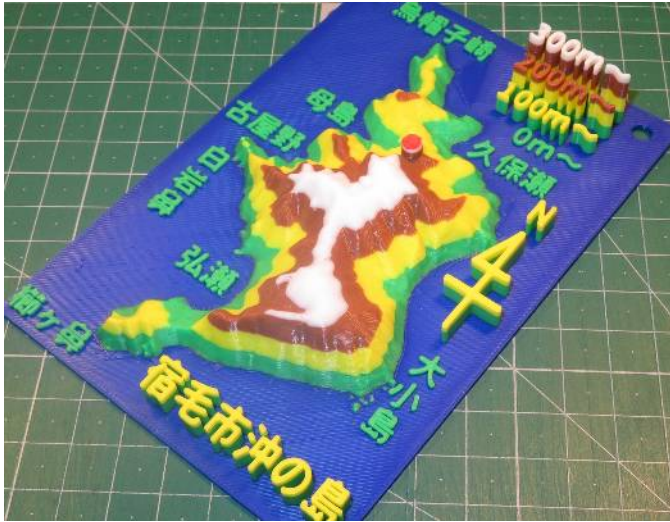


「高知紀行 (12)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

午後は、小学生 2 人（全校児童です）に、私が 1 時間（4 5 分間）の授業をしました。



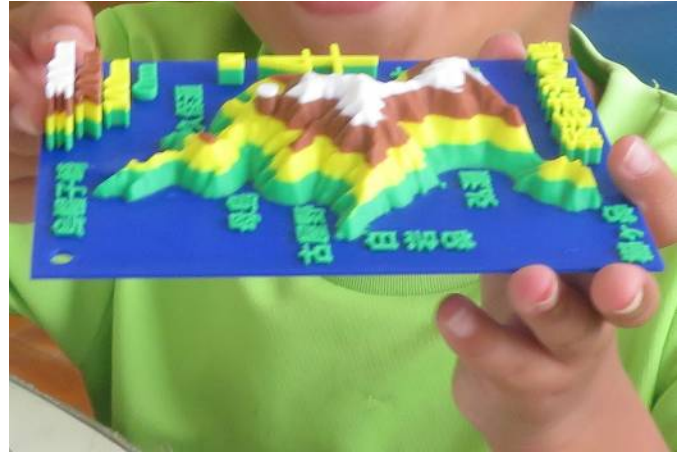
まず、小学校のある沖の島の立体模型の観察です。研究室の 3D プリンターで作って持参しました。3D プリンターはもちろん 1 色でも造形できますが、EMS という付属機器を接続すると、最高 4 色まで自動的に造形が可能です。「フィラメント」と呼ばれる針金状のプラスチック素材を、データ通りに自動的に変更してくれるのです。この立体模型は 5 色使っていますが、裏技を使えば理論上何色でも可能です。

平面的な色の変更の場合、フィラメントの交換回数が多く、造形的には非常に時間がかかりますが、この地形模型は高さによって色を変えているので、フィラメント交換も 4 回だけで、比較的短時間で完成しました。赤い●の場所が、小学校のある高台（峠）です。



小学生は 1 年生の男の子と 4 年生の女の子の 2 人

だけです。もちろん複式学級です。きょうだいだと思いましたが、そうではないそうです。



「島の立体模型なんて初めて見た！」ととても喜んでくれました。その後、紫外線硬化樹脂を使ったスタンプを作り、4 5 分はあっという間に終わりました。



小学校の校舎は島の高台の「峠」にあるので、図書室の窓からも海がよく見えます。すばらしい環境です。



授業が終わって、子どもたちとお別れしたあと、副校長先生が港まで送ってくれました。学校のそばの道から母島（もしま）港や姫島、鵜来島が見えます。



小さな島なので、ここといった観光地や観光施設はありません。海の風景が最高の観光資源です。一か所だけ車で行ける場所に展望台があります。ここは島の西海岸にある「白岩鼻（岬）」という景勝地です。沖には姫島が見えます。よく晴れた日には、豊後水道尾越しに九州も見えるそうです。残念ながらこの日はあまり視程が良くなく、九州は見えませんでした。



白岩鼻はその名の通り、白い岩石（付加体堆積岩）でできています。連絡船からもよく見えました。



帰りは行きとは別の「弘瀬（ひろせ）」という港まで送ってもらいました。この島第二の集落です。



この仮説の小屋のような建物が、乗船券の売り場です。二等のみで、片道 1,350 だったと思います。



帰りの船も時刻通りに来てくれました。この一隻しかないなので、点検でドック入りする時は、瀬戸内海を航行している別の会社の船が来るのだそうです。しかし、もともと瀬戸内海の穏やかな海域の船なので荒波に弱く、少し時間がかかるのだそうです。



離島を離れる時は、たとえ短時間の滞在でも、なぜか独特の感傷的な気持ちになるものです。特に港に見送りの方がいるとなおさらです。「ああ、またゆっくり来たいな～」と思いました。